

ほのかぜ 南風

編集・発行
上甕中学校 P T A 研修部

所在地・連絡先
薩摩川内市上甕町中甕 191 番地 1
09969-2-0014

第6回幼小中合同大運動会

皆で作り上げる運動会

運動会当日の何か月前から、子供たちは運動会の練習を毎日行っていました。何を練習しているのか細かいことなど言わなかった。私もあり聞きませんでした。そして運動会当日、弦太も最後になるので、ビデオ撮りをしました。幼稚園生から中学生まで並んでいる



上中ソーラン

姿を見て、子供たち全員で作り上げたものを、今日披露してくれるんだと思い、それだけで感動しました。子供たちの元気で生き生きと頑張る姿を見て、保護者としても運動会を盛り上げていかなければと思いました。そして子供たちすべての演技、競技から真剣さが伝わってきました。

応援合戦、上中ソーランなど皆で話し合ってきた演技は、本当に素晴らしく、思わず涙ぐんでしまいました。親としては応援することしか出来ませんでした。最後の思い出として、三年生が親子種目で一緒に何かを披露するのは、とても良いことだと思います。

今年は、より一層盛り上がったように思えました。地域の方々も良く笑い、応援もたくさんしていただきました。人数の少ない中、いろいろ考え、一日のプログラムを考えるのも大変だと思えますが、子供から大人まで皆で参加し、本当に温かい運動会でした。

先生方も大変お疲れさまでした。とても良い運動会でした。

(三年保護者 岩下 佐枝子)



赤団応援

里音が白団の団長を務めることが決まった時、うれしさの後に思わずため息をついてしまった私でした。三年生の男子が二名しかいないので、もしかしたらという思いもありましたが、対する赤団の団長が体も大きく運動神経抜群の弦太さんだったからです。



白団応援

心配していた通り、運動会当日、白団は僅かな差で各種目に負け、負け、そしてまた負け、気がつくとも百点以上の差がついていました。がっかりと肩を落とす里音に対し、ありきたりの言葉しかかけてあげられませんでした。

とうとう最後の種目のリレーになり、中学校最後の運動会もこれで終わりかと思っっていると、白団が一位でスタートを切りました。四位でスタートしたもうひとつの白団チームも二

位に上がり、テントの中は大騒ぎ。白団の生徒たちの表情も絶対に勝つぞと言っているようでした。戦いはまだ終わっていない、会場にいるすべての人が興奮する中、白団はワン・ツィ・フィニッシュを決めてくれました。最後まであきらめずに戦うことのすばらしさを見せてくれました。ため息をついてしまったあの日から、すっきりしなかった私でしたが、白団の勇ましい姿を見ることができ、結局赤団の優勝となりましたが、すがすがしい気持ちで運動会を終えることができました。

夏休みから生徒と共にがんばってくださいました先生方には深く感謝いたします。そして無事運動会を終えることができたことをうれしく思います。ありがとうございます。

(三年保護者 中間 明子)



地区新人総体

卓球

地区新人戦を終えて

十月十二、十三日の二日間、サンアリーナ川内において川薩地区新人戦が行われ、卓球部九名が出場しました。

初日の団体戦は総当たりで、男子は七試合、女子は六試合を戦いました。少人数で不利な状況下でしたが、男子は対高江中戦、対川内南中戦で3-0ストレートで快勝をみせ、女子も対宮之城中戦、対平成中戦で、粘り強い活躍をみせ、勝利することができました。一年生は二度目の大会となり、六月の中体連の時よりも、自信をつけているように感じられ、練習の成果を發揮しようと、懸命にプレーしていました。二年生はプレーの内容はもろんのこと、試合以外でも落ち着いた行動で、さすが二年生と思わせる場面が多く見られました。特に一年生のアドバイザーについた際の温かく熱心に励ます姿は、とても印象的でした。

二日目の個人戦では、前日の緊張も解け、伸び伸びとしたプレーがみられ、一回戦に出場した全員が勝利することができました。二回戦では皆必死に頑張りを見せてくれましたが、あと一步のところまで、残念ながら惜しくも敗退してしまいました。そんな中、男子一年生の部では、内山翔斗さんが三位入賞、男子二年生の部では、



卓球部

梶原愛樹さんが五位入賞、川畑響希さんが七位入賞を果たし、素晴らしい結果を残してくれました。

試合を終えた生徒たちは、今大会の締めくくりに中学生とは思えないハイレベルな男子二年生の部の決勝戦を、息を凝らしながら食い入るように観戦し、次の大会に向け、やる気を奮い立たせたのではないだろうか。

今大会でのさまざまな経験を糧に、今後日々の練習に励んでほしいと思います。

(一年保護者 宇宿 ゆかり)

剣道

新人戦 剣道

十月十三日、新人戦。一・二年生の三人で挑む初めての大会でした。

一年生の太史さんは初めてとなる試合、優磨さんと楓は団体戦で里中と川内中央との初めて合同チーム、三人とも初めて尽くしの大会となり不安と緊張が大きかったと思います。



剣道部

その中で、三人とも練習の成果を発揮し、攻める姿を見せてくれ、団体戦では三位という素晴らしい結果を残す事が出来ました。

今回の大会では、それぞれの成長に驚かされ、一生懸命試合をする姿は迫力があり、すごく感動をもらいました。

新人戦を経験して、それぞれ学ぶことも多かったですと思います。学んだことをこれからの練習に生かし、次の大会では更なる活躍を期待しています。

(二年保護者 小村 まどか)

バルーンアートを参観して

十月二十七日、薩摩川内元気塾の一環としてバルーンアートが行われました。中津幼稚園の園児数名も一緒に参観しながら、カラフルな風船を使ったバルーン製作が始まりました。割れるんじゃないかとハラハラしたり、結ぼうとした風船が飛んでいたりしながらも、みんな楽しそうに活動に参加していました。各自で膨らませ、結んだ風船を、指導者の先生に教えてもらいながらつないでいきますが、何が出来るかは分かりません。つないだ風船を組み立てることは一人では出来ないのです、自然に、協力して風船を支えたり、アドバイスしたり結んだりする姿が見られるようになり、みんなの力を合わせて、一メートルを超える風船人形が二体完成し、生徒も園児も歓声を挙げていました。

その後は、みんなが聞いたことのある曲の生演奏を聴きながら、目の前で作りあげられるアンプマンや動物、果物などをワクワクしながら見入っていました。

今回の元気塾では、楽しく温かい雰囲気の中で、物を作り上げる楽しさや、みんなを楽しませる工夫の大切さなどを感じる事が出来たと思います。

(一年保護者 家吉 美紀)

Melody～上中色を奏でよう～



上中祭

待ちに待った上中祭。毎年、テーマに沿った内容で今年は何が起こるか、とても楽しみにしていました。

今年のテーマはMelody(上中色を奏でよう)と題し、さまざまな上中色で魅せてくれました。

まず、英語発表では、各学年で学習したスキット、暗唱、弁論をクラスの代表者が、堂々と発表してくれました。日頃の学習の成果を大勢の人の前で立派に表現できました。

劇発表で、一年生は、ふるコミュ科で上甕の歴史について学んだことを、方言を交えながら、それぞれの役になりきって楽しい劇に仕上げている、とても楽しく鑑賞しました。鬼さんの好演ぶりに会場も沸きました。



1年生英語スキット家吉さん・栞木さん



2年生英語発表 小村さん



3年生英語弁論 山口さん

そして、三年生は海風四十周年にちなみ、海風創刊に至った経緯を劇で再現。いろいろな先輩方の思いを知ること、伝統の後継者としての自分たち上中生の責務を、再認識していました。さすが三年生でした。

二年生は、これから訪れるであろう、人生選択の時期において、自らを分析し、決断していくとうとする内容に、大人である自分ですら、とても考えさせられました。感心しました。



1年劇「ズッコケ三兄弟」

それぞれの学年が、学年色を奏で、とても見応えのある劇でした。

今回の上中祭で、私が最も楽しみにしていたのが、全校合唱奏でした。早い時期から、少しずつ練習していたことは知っていましたが、内容は秘密だと、少しも教えてはもらえませんでした。



2年劇「マイライフ」

きっとびっくりさせたかったのでしよう。その思惑どおり、本当に驚き、感動しました。夏休み以降、ずっと行事続きで忙しかったにも関わらず、いつこんなに練習ができたのだろうかと思うほどの完成度。先生方と子供たちが一体となり、素晴らしい合唱奏でした。いろいろ

るな楽器を楽しそうに演奏する子供たちの姿に、また成長を感じることでした。たくさんさんの感動をありがとうございます。

(二年保護者 山下 智子)



3年劇「僕らの海風」



合奏「テキーラ」

「海風」から元気を

第六十四回学校新聞コンクールにおいて、海風が佳作に選ばれた。

生徒会活動の中でも長年にわたり発行され、その歴史は実に四十年にも及ぶ。

編集長を中心に紙いっぱいに記された記事は、実に多彩でクオリティの高い内容であり、記者たちのアイデアや活動の努力を感じ取れる。

記事の内容としては、学校行事や、部活動の報告などが詳細に書かれており、その一つ一つはただの報告としてではなく、個人の目標や信念といったものが覗える。

その他にも、学校内でのことだけではなく、地域で起こったこと、国内でのこと、環境問題のこと、中には四十年前の海風そのものを記事にしたりと、さまざまなテーマに目を向け、読む側にとつて、飽きることのない内容ばかりである。

賞賛すべきは、その一文字一文字が、すべて手書きであり、書く人の熱意が感じられること。最初は、黙読しているつもりが、気づくとぶつぶつと声に出して読んでしまうこともある。今年で四十年継続しての発行となり、伝統あるこの海風を生徒たちが受け継いでいることは、保護者として、実に誇らしく思う。

配布された海風を、軽く読み流す方、中にはほとんど読まない方もいるだろう。しかし、街中で海風の内容を話されたり、褒めていただく

持久走大会

こともあり、楽しみにしている方も多い。
 上甌中のキャッチフレーズは、上中から元気を発信！ 生徒たちの発信を、この海風によって、より多くの方に、より永く愛読され、地域と共に上甌中が活性していくように願って、今後も継続していくことを期待する。

(二年保護者 梶原 健太)



十二月五日に上中の持久走大会が行われました。子供たちはこの日に向けてきつい練習を続けて頑張ってきました。スタート前に軽いランニングで体を慣らしている子供たちの顔は、少し緊張しているようでした。

「パン！」というピストルの音で勢いよくス



女子1位 3年 内山さん



男子1位 2年 小村さん

ターゲットしたのは最初に五キロを走る男子。三キロ走る女子は三分後のスタートです。みんなそれぞれに掲げた目標タイムを目指し、走り出しました。力強い子供たちの走り。しかし、周を重ねるごとに、表情には苦しさが出てきます。そんな子供たちの背中を押すように、沿道からたくさんの人たちの声援をいただきました。子供たちも、その声援に応えるように素晴らしい走りを見せてくれました。最初のスタートから約三十分、みんな無事にゴールしました。今年、二年生の小村楓君が二十三分三秒のタイムで大会新記録を出しました。女子の一位は三年生の内山百恵さん、タイムは十三分五四秒でした。また、目標タイムを達成することができた生徒もいました。みんな本当に頑張ったと思います。来年の持久走も期待したいと思います。

(二年保護者 川畑 富貴子)



水産体験学習



バルーンアート